



増え続ける外国人と助け合える Well-being なまちづくり

～リアルとデジタルからの5つのアプローチ～

By 福井県越前市 「未来計画隊」 (仁愛大学安彦ゼミ)

概要

私たちが住む越前市では外国人市民が増えており、特にブラジル人の割合が高い。私たちはSDGsの3番、11番、17番の視点から越前市を「ブラジル人とお互いに助け合って住み続けられるまち」にしたいと考えた。もし、ブラジル人がAEDを使えたら、ブラジル人の「安心」にも繋がり、「いざというとき」も国籍関係なく助け合えることができる。互いが助け合えるまちにすることができる。ブラジル人がAEDを使えるようになるためには産学官が協力して問題解決に取り組む必要がある。私たちは、越前市役所（情報統計課、健康増進課、窓口サービス課、防災危機管理課、市民協働課）、南越消防組合、越前市国際交流協会、運転免許支援所と話し合い、実現に向けた5つのアプローチをネット上で手軽に確認出来る「デジタル」と、直接現場で確認する「リアル」の2つの視点からデザインした。

Reasons | 越前市に増え続ける外国人



ブラジル人も住みやすいまちにしたい

図1：越前市多文化共生推進プラン(概要) (2020年3月策定)

図3：福井新聞メディア 最終閲覧日:2020年12月1日 <https://mobile.twitter.com/fukunpmedia/status/963569130912624640/photo/1>

図2：MS&ADホールディングス 最終閲覧日:2020年12月17日 <https://www.msad-mirai.co.jp/contents/cate05/001/>

Purpose | Well-being な越前市へ

- ◎ブラジル人が“安心”して暮らせるまちに
- ◎“いざというとき”に国籍関係なく助け合えるまちづくり

Method | 実現のための仕組み

ブラジル人がAEDを使えるようにするためにはどうしたら良いか？

◎越前市役所（情報統計課、健康増進課、市民協働課、窓口サービス課、防災危機管理課）、南越消防組合、越前市国際交流協会と何度も話し合いを重ね、私たちが考えたのは…



- ①オープンデータの整備
- ②MyMapの作成と配布
- ③AED設置場所に看板とステッカーの設置
- ④AED付近にポルトガル語訳された説明書の設置
- ⑤AEDの使い方動画の作成と持続的な運用

Details | リアルとデジタルからの5つのアプローチ

- ①オープンデータの整備
情報統計課と協力してAED位置情報のポルトガル語版を掲載する。翻訳は越前市国際交流協会の方に依頼する。更新は健康増進課に委任する。
- ②MyMapの作成と配布
GoogleのMyMap機能でAEDマークを使って分かりやすく表示し、越前市のFacebookにURLを貼り付け、いつでも確認できる仕組みにする。さらにMyMapの印刷したものを「移住者パック」にいれてもらう。
- ③AED設置場所に看板とステッカーの設置
ポルトガル語で“AEDがある”、“ポルトガル語版AED説明書がある”という表示を、窓口サービス課・越前市国際交流協会監修のもと私たちが作成。建物の入り口と、AED本体付近に設置し、より認知できるようにする。
- ④AED付近にポルトガル語訳された説明書の設置
場所が分かるだけでなく使い方も分かるようにポルトガル語版の説明書を設置する。
- ⑤AEDの使い方動画の作成と持続的な運用
南越消防組合、越前市国際交流協会の監修・協力のもとに作成。市のFacebookや運転免許支援所、南越消防組合など多くの場所に提供し持続的な運用を行う。

Sustainable | 持続可能な未来へ

～持続的な仕組みにしていくために～

- ◎AEDが更新される度に、AED位置情報のオープンデータやMyMapも更新していく
- ◎作成した動画を多くの場所で持続的に運用してもらう
- ◎私たちの仕組みをベースに他言語へも対応していく

安心して住み続けられる
Well-beingな越前市の実現へ